

2016年1月6日

「2016年 代表取締役社長・山中 明年頭所感」

新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
 新しい年を迎えるにあたり、昨年の振り返りと本年以降の取り組みについて述べさせていただきます。

◆ 2015年 ～富士通グループ連携、Future Link® (フューチャーリンク)を展開～

2015年の自動車市場は地域によって差異が見られたものの全体的には堅調に推移いたしました。当社事業領域においてはコネクテッドカーや、自動運転の実用化に向けた技術革新が目覚ましくサプライヤーの競争はさらに激しさを増してまいりました。そのような中、当社では4つの重点施策を掲げ全社一丸となった取り組みに注力してまいりました。

- ① 「富士通グループの車載機メーカーとして自動車ビジネスを強化/牽引」
- ② 「事業体質を強化(Quality Cost Delivery + Engineeringをレベルアップ)」
- ③ 「経営基盤を強化」
- ④ 「人づくり・風土改革を推進」

また、Vehicle-ICT事業を強力に推し進めるため富士通グループ各社との連携も加速させてまいりました。基盤となるコアテクノロジー/プラットフォームに関するグループの技術を結集し、将来目指す姿を形にした先行開発実験車両をお客様に提案し評価をいただくことができました。

さらに、「情報を駆使し、人に働きかけ、行動を促す」という、当社が掲げた、つながる車載情報システムのコンセプト「Future Link®」を加速させ、富士通のクラウドサービス基盤を活用した「タクシー配車システム」、同基盤を活用することでヒヤリ・ハット画像を自動的に抽出する機能を業界で初めて搭載した「ドライブレコーダー」を発売することができました。

◆ 2016年 ～お客様と新たな価値を創出～

当社では『単体製品のサプライヤー』から『つながる車載情報機器・サービスを提案・提供するシステムメーカー』への変革を目指しております。この方針に対しては、自動車会社向け展示会や ITS 世界会議/モーターショー等への出展を通じお客様の期待を肌で体感することができました。関連する引き合いも活発化してきており、目指す方向は決して間違っていないと確信しております。

2016年はこのような期待に応えるためにも、お客様との対話をこれまで以上に深めてまいります。最先端を行くシステムにこだわり提案のスピードを上げるとともにその内容を充実させてまいります。お客様とともに新たな価値を創り出し Vehicle-ICT 事業の具現化に努めてまいります。

土台となるのは富士通のヒューマンセントリック・イノベーションに基づく ICT と、当社が掲げた、つながる車載情報システムの根幹を成すコンセプト「Future Link®」に基づくカーエレクトロニクス技術の融合です。

初めて富士通と共同で出展した東京モーターショー2015で掲げたテーマ「ICTでクルマは人のベストパートナーに」の実現に向け、富士通グループの技術を結集し、強みである、センシング、ヒューマン・マシン・インターフェース(HMI)、情報処理など Vehicle-ICT事業を支えるコアテクノロジー/プラットフォームをより進化させることに挑戦し続けます。

経営をより盤石なものとするために4つの重点施策についても引き続き推し進め、さらなる変革を生み出す大きなステップの1年となるよう取り組みを加速させてまいります。

配布先	日時	方法
神戸経済記者クラブ / 大阪機械記者クラブ / 中津川記者会 / 小山市記者クラブ / 業界紙 他	2016年1月6日(水)14:00	配信(E-Mail, Fax)